

01 / サービスの使い方

カードショップのためのトレカリーチ

入荷のたびに文章を一から考える仕事を、入荷記録から下書きを確認する流れへ。いまのPOSを使いながら、告知の準備とLINEでのご案内を整える活用ガイドです。

このような仕事を整理したい方へ

- ・入荷処理を優先すると、SNSでの告知が後回しになる。
- ・同じ商品の説明をXとLINEで何度も書いている。
- ・告知前の価格・在庫・写真の確認が、担当者によってばらつく。

使う材料

商品名、カードタイトル、状態、販売価格、在庫数、入荷日、店舗の写真。まずは店が確認した事実を残すところから始めます。

基本の流れ

記録を整理 → AIの下書きを確認 → お店で編集・承認 → 必要な相手・媒体へご案内。
AIが書いた文章にも確認は必要です。下書きを作ったことと、外部へ配信されたことは区別して確認します。

この資料で分かること

- 2～3ページ：具体的な2つの使用例と文面の例
- 4ページ：営業中・閉店前・週次の使い方
- 5ページ：導入前の準備と最初の運用手順
- 6ページ：よくある質問とご相談前の確認

実在店舗の導入事例・成果実績ではありません。利用できる画面や配信先は、業種・設定・連携先の状況で異なります。

02 / 使用例 1

今日の入荷から、Xの告知文を用意する

入荷登録を終え、投稿したい商品を選ぶ場面です。レジ・買取・会計を置き換えず、入荷に関する事実を告知の準備に使います。

お店が用意する記録

架空の例：商品名『サンプルカードA』、タイトル『ポケモンカードゲーム』、状態『傷あり』、在庫2枚、販売価格は店が入力。店舗で撮影した写真を用意し、入荷日と数量を登録します。

アプリで進めること

在庫画面の入荷記録から投稿下書きを作成します。商品名・状態・価格などの情報を材料にし、文章を店主が確認します。相場を記載する場合は、店が調べた金額と確認日を使います。

文面のイメージ（完成文の保証ではありません）

【入荷のお知らせ】サンプルカードAが2枚入荷しました。状態：傷あり／販売価格：税込1,200円（架空の例）。現在庫2枚です。状態の詳細は店頭でご確認ください。売り切れの際はご容赦ください。

送る前に、担当者が確認

これは構成例です。実際の投稿には確認済みの価格と在庫状況を入れ、売れた後の数量も照合します。写真が実物と一致しているか、傷の説明に不足がないかを確認してから公開します。

この使い方で整理できること

入荷記録から告知文へ進めます。SNSへの自動公開を意味しません。Xの接続設定がなければ、そのまま実配信される運用にはなりません。

03 / 使用例 2

希望件数を見て、LINE全体告知を判断する

入荷したカードのタイトルに関心のあるお客様が何人いるかを見て、友だち全員へ告知する価値があるか考える場面です。希望の件数は配信先の絞り込みには使いません。

お店が用意する記録

入荷した商品名・状態・販売価格・現在庫と、希望タイトルの登録件数を確認します。LINEの友だち全員へ届ける配信なので、個人の希望や会話メモを本文に含めません。

アプリで進めること

入荷記録からLINE用の文面を下書きにします。投稿画面で承認した後、配信画面から友だち全員へ送る流れです。希望登録があっても、その方だけに自動で送る仕組みではありません。

文面のイメージ（完成文の保証ではありません）

【入荷のお知らせ】サンプルカードA／状態：傷あり／販売価格：税込1,200円（架空の例）／現在庫2枚。気になる方は店舗へお問い合わせください。売り切れの際はご容赦ください。

送る前に、担当者が確認

送信時点の価格・数量・写真と、LINEの残り通数を確認します。全員向けの告知として適切かを判断し、置き置きや購入の確約と受け取られる表現は避けます。

この使い方で整理できること

希望タイトルの件数を告知するかの判断材料にし、下書きと配信を店主が確認できます。希望者だけへの個別通知や自動置き置きは行いません。

04 / 日々の運用

いつ、誰が確認するかを決める

機能を一度に増やすより、記録・確認・発信の担当を決めると、日々の仕事に組み込みやすくなります。下記は運用の提案であり、自動実行の設定ではありません。

1. 入荷時

商品・状態・数量・価格を確認し、入荷を記録する。

2. 撮影後

使う写真を登録し、優先する商品の下書きを作る。

3. 配信前

価格・現在庫・宛先・画像・LINE通数を見直し、承認する。

4. 週1回

告知した商品と反応を見返し、優先ルールや文面を調整する。

お店とAIの役割

AIは情報を材料に候補や文面を用意します。お店は事実、対象者、最新の状況、言い回しを確認します。迷うときはその場で送らず、担当者へ引き継ぎます。

振り返りで見ること

作った下書きのうち使えたもの、修正が多かったもの、送らなかった理由を確認します。SNSの反応や来店記録も見ますが、売上の変化を投稿だけの成果と断定しません。追えない数字は、推測で埋めず未確認として扱います。

05 / 導入の準備

まず一つの仕事から始める

以下を用意すると、現在の運用を残しながら始め方を相談できます。データをすべて移すことや、既存の仕組みをやめることを前提にしません。

準備 1

POSから取り込む場合は、実際のCSVを見て列と商品コードを対応付けます。リアルタイム連携を前提にしません。

準備 2

原価・販売価格・相場は別々に扱います。過去の売上や仕入れ金額を現在の商品価格だけから逆算しません。

準備 3

商品写真は店舗で用意します。公式・他店の画像を無断で取得する機能として案内しません。

準備 4

希望タイトルの件数表示とLINE全体配信の違いを確認し、SNS接続と配信担当者を決めます。

開始までの進め方

- ① いまの仕事と使用中のシステムを確認
- ② 使う記録・取り込み方法・接続条件を確認
- ③ サンプルを読み、お店の事実と合うか確認
- ④ 確認担当と日々の手順を決めて運用開始

最初の運用で確認すること

まず少数の記録で日付・名前・商品情報などを見直し、下書きが作れることを確認します。実配信の前に、宛先と配信状態を確認してください。デモやサンドボックスで動いたことだけを、接続完了の証拠にはしません。

06 / よくある質問

ご相談前に確認したいこと

いまのPOSをやめる必要はありますか？

ありません。レジ・買取・会計の基幹は既存の仕組みで運用し、お店AIでは記録を告知の準備へつなげます。対応できるCSVの内容は事前に確認します。

相場や新しい入荷を自動で取り込みますか？

この案内では相場の自動取得やPOSとのリアルタイム連携を前提にしていません。店が入力・取り込んだ情報を利用し、相場に触れる場合は確認日を添えます。

取り置きや大会受付、古物台帳も含まれますか？

この資料で案内する告知運用には含めません。取り置きの確約は店舗で対応し、大会受付や古物台帳・本人確認は既存の仕組みで管理してください。

料金と連携について

料金・契約条件は公式サイト最新の案内と、お申し込み前の説明をご確認ください。LINEの配信通数や、外部SNS側の接続・利用条件も確認します。資料請求だけで契約や課金は発生しません。

ご相談のときに教えてください

お店の業種／手間がかかっている仕事／現在使っている予約・POS・LINE等／残している記録／主な確認担当者。最初はお客様の個人情報を送らず、形式や運用の概要だけで構いません。

公式サイトで使い方・料金を確認する → omise-ai.com